



Title	大阪大学附属図書館シンポジウム「学術情報のこれからを考える-電子リソース・Open Access・機関リポジトリ-」
Author(s)	
Citation	
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/21225">https://hdl.handle.net/11094/21225</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 学術情報のこれからを考える

—電子リソース・Open Access・機関リポジリー—

日時：平成24年 2月 21日(火)

会場：大阪大学 银杏会館(吹田キャンパス)

3階 阪急電鉄・三和銀行ホール

## 講師紹介

### 安達 淳

国立情報学研究所学術情報基盤推進部長

#### 論文

「アカデミックリンケージ：膨大な学術情報へのアクセスを支援するリンケージ基盤」、"Optimal Pivot Selection Method Based on the Partitioning and the Pruning Effect for Metric Space Indexes"、「情報爆発時代における情報管理・融合・活用基盤」ほか多数

#### 著書

『学術情報流通と大学図書館』（共著、勉誠出版、2007）、『電子ジャーナルで図書館が変わる』（共著、丸善、2003）ほか

### 竹内 比呂也

千葉大学附属図書館長

#### 論文

「学術情報政策と大学図書館」、「機関リポジリーの現在」、「デジタルコンテンツの彼方に図書館の姿を求めて」ほか多数

#### 著書

『構造的転換期にある図書館：その法制度と政策』（共著、日本図書館研究会、2010）、『変わりゆく大学図書館』（共編著、勁草書房、2005）ほか

## 趣旨

電子的な学術情報資源の普及は、研究活動に大きな利便性をもたらした一方、それと引換えに大手出版社による寡占が進み価格が高騰するという問題が深刻化しました。この現状に対し、「学術研究成果への自由なアクセス」を掲げたオープンアクセスへの機運が高まりをみせ、機関リポジリーの普及を後押ししています。その動きは、いまや学術情報流通の担い手である学術コミュニティ、図書館、および出版社それぞれに、その役割と責任の再考を迫るに至っているといえるでしょう。

本シンポジウムでは、学術情報流通の現状が抱える課題をふまえ、電子環境における新しい図書館の役割をめぐる議論を通じて、望ましい学術情報流通のあり方について考えることを目的とします。

## プログラム

13:30～13:35

開会挨拶

相本 三郎（大阪大学理事(基盤研究・リスク管理担当)）

13:35～14:35

講演「学術情報流通の現状と課題

—電子ジャーナルのもたらした新たな課題—

安達 淳（国立情報学研究所学術基盤推進部長）

14:35～15:35

講演「電子環境における新しい図書館の役割」

竹内 比呂也（千葉大学附属図書館長）

15:35～15:55

報告「電子リソース・機関リポジリー大阪大学の現状を中心に—

石井 道悦（大阪大学附属図書館事務部長）

15:55～16:10

（休憩）

16:10～17:10

オープンディスカッション「これからの学術情報流通とは」

司会：東島 清（大阪大学附属図書館長）

パネリスト：安達 淳、竹内 比呂也、石井 道悦

17:10～17:15

閉会